巻　頭　言

“看護福祉学”のパースペクティブ

20余年前，本学「看護福祉学部」の学部名称は，世界初のものであった．現在では，国内外において同様の学部名称を見かける機会が増えてきた．

古来，科学＝学問分野は，禁欲的なまでの対象限定思考により，そのレゾン‐デートルを確立してきた．哲学や医学などに見られる一文字の学問名称が，その傍証である．後に，近代社会の成立とともに，複雑化する社会を予見すべく，経済学や社会学に代表されるような二文字により表記される学問分野が成立した．現在では，外来語（カタカナ）による学部名称も存在し，平成21年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構が実施した調査によれば，学位に付記すべき専攻分野の名称は，学士が14頁，修士・専門職学位が11頁，博士が７頁にわたる表に整理されていた．もはや，科学の進化の過程で生起する専門分化や細分化の現象の域を超えたものであると言えなくもない．

翻って，“看護福祉学”である．この四文字による学問分野は，通常は連字符（‐：ハイフン）科学と呼ばれるものであり，本来は異なる学問的関心の融合により成立するものである．シェリフ等によれば，異なる学問的関心の接近・融合は，その発展段階における協働の緊密度により，multi-disciplinary（複数の学問体系が共同で研究を行う段階）→inter-disciplinary（複数の学問体系の共同作業により，新たな知を共有する段階）→cross-disciplinary（複数の学問体系に及ぶ新しい専門分野が生じる段階）→trans-disciplinary（既存の学問体系の枠組みが崩れ，新しい学問体系が生じる段階）に分類される〔シェリフ，M･CW シェリフ（1971）：学際研究‐社会科学のフロンティア．鹿島研究所出版会，pp. 388および赤司秀明（1997）：学際研究入門‐超情報化時代のキーワード．コスモトゥーワン pp. 175を参照されたい〕．われわれの“看護福祉学”は，どの地平に到達しているのであろうか．

ともあれ，看護福祉学部学会学術集会も第10回大会の佳節を迎えた．本学会の母体である看護福祉学部は，「保健・医療・福祉の連携と統合」を理念として創設されたものである．近年，この「連携」と「統合」は，複雑化する問題群への対応を迫られ「チーム医療」や「多職種連携」という新たな用語のもとで，より実践的・政策的課題として議論されるようになってきた．前人未到の超高齢社会に突入した現在，看護学と社会福祉学との連携と協働により取り組むべき喫緊の課題は，「加齢」「障害」「地域（生活）」をキーワードとする問題群に他ならない．

その意義に鑑み，看護福祉学部学会学術集会や『看護福祉学部学会誌』における実りある議論の蓄積が，新たな時代を切り拓く“人と流れ”の淵源となることを切に祈念するものである．

第10回学術大会長　志水　　幸